

学年 中学校第1学年	テーマ 地域創生	学習形態 学年総合・一部課題選択
単元名 イベント開催を通して、大和町の魅力をたくさんの人に知ってもらい、大和町を元気にしよう。		
本質的な問い 今後、自分たちは、大和町とどのように関わっていけば良いのか？		
単元を終えた後の児童・生徒の姿 自ら課題を設定できるようになり、自分の好きなこと・得意なことを生かして課題を解決できる。		
単元を始める前の児童・生徒の姿 地域の問題を解決したいという意欲はあるが、自ら課題を設定するのが難しい。		

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【①知識】 大和町には問題だけでなく、まだ知られていない魅力があり、それらを伝えるには、地域の方との協力が必要であることを理解している。 【②技能】 大和町の魅力の発信活動をターゲットに応じた適切さで実施している。 【③探究的な学習のよさの理解】 大和町の問題を解決する学習が、大和町の発展のみならず、自らの生き方に関わっていることに気付いている。	【④課題の設定】 大和町にある複数の問題の中から、自分たちで解決することができそうな課題を発見し設定している。 【⑤情報の収集】 イベントの宣伝に必要な情報を効率的に収集する手段を選択している。 【⑥整理・分析】 自分たちの素案といただいた意見の共通点と差異点を見つけている。 【⑦まとめ・表現】 イベントの内容について、確かな理由や根拠を添えて、自分の考えを主張している。	【⑧-1 自己理解】 これまでの自分の生活を見直し、自分の好きなこと・得意なことを理解しようとしている。 【⑧-2 他者理解】 宣伝方法について異なる意見や他者の考えを聞き入れようとしている。 【⑨主体性・協働性】 自分の意思で大和町の問題解決に向けて、取り組もうとし、自分もしくは他者の良さを生かしながら、協力して、イベント準備に取り組もうとしている。 【⑩将来展望・社会参画】 大和町との関わりの中で自己の生き方を考え、これからの将来の中で地元のために自分にできることを見つけようとしている。

	1				2				3			
費	「自分たちの町を盛り上げるためには、どうすればよいのか？」											
月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
内容	イベント立案【15 時間】 ・大和町が抱える課題は？大和町が元気になった状態とは？ ・どんなイベントなら地域の方は協力してくれるだろう？ ・どこで、どんなイベントができるだろう？				プレイベントの実施【25 時間】 ・これからどんな準備をしていかなければならないだろう？ ・イベントは、どのように準備・運営すればよいだろう？ ・宣伝は、どんな情報をどういう方法で実施すればよいだろう？				イベントの実施【10 時間】 ・プレイベントを受けて、どうすれば本番で大和町の魅力をもっと伝えられるだろう？ ・大和町は元気になったのだろうか？ ・この学習を通して、自分たちが成長した部分は？			
手立て	・子供の視点からの問題と大人から見た問題を比較して解決を目指す大和町の問題を設定できるように、市役所の方に話をしていただく。 ・「時間がかかる／すぐにできる」「個人でできる／集団でできる」の座標軸を用いて魅力の発信方法(イベントの内容)を整理する。				・効率良く情報を収集できるように、自分たちで素案を作ったのちに、助言をいただく形で講師の方に指導をいただけるよう、教師と講師が事前に連携を行う。 ・素案といただいた意見の共通点と差異点をベン図を用いて整理・分析する。				・年間を通して、サポートしていただいた地域法人おせっかいさんから生徒の肯定的評価と課題を投げかけていただく。			
知技	①				②				③			
覇	④⑦				⑤⑥							
素					⑧-1⑧-2⑨				⑩			
ひものこ	地域法人おせっかいさん 大和支所 スマイルラボ、くわなし皆来館、グランエントランス広島三原				FM みはら 野村直行(デザイナー)、泉太樹(株式会社 KOTOYA) 広島三育学院				スマイルラボ			